

WORKPLACE VCC	
バリューチェーン・コラボレーション	
ワークスペース管理	
Movex の活用で一貫性のあるビジネス情報を維持	
現状の課題	Movex 活用による利益
現在のインターフェースは学習能力が低く、もどかしい。異なるアプリケーションでそれぞれバラバラにデータの入力がされるため、データに一貫性がなく、複雑。	ワークスペースは、ユーザーフレンドリーなインターフェースに加え、異なるアプリケーションへの入力が一元化されるため、あらゆるエリアにおいて標準化された会社像を創造でき、業務手順が一貫され、コラボレーションが促進されます。
Movex の活用でユーザー教育の負担を軽減	
現状の課題	Movex 活用による利益
ユーザーにシステムのインターフェースに慣れてもらうのに時間がかかり、計画立案から実施まで教育に長い期間を要する。	ワークスペースのインターフェースは非常に使い勝手が良く、ユーザー教育に時間を要しません。
Movex の活用でコラボレーションを促進	
現状の課題	Movex 活用による利益
情報が、他部署や他社の人と簡単に共有できないフォーマットになっている。	パーソナライズされた情報に素早くアクセスすることができ、部署や組織を横断する情報の共有も可能になります。
Movex の活用で無駄な時間とミスを削減	
現状の課題	Movex 活用による利益
現在のインターフェースは使用方法が難しく、頻繁にミスが起こる原因となっている。修理にも時間と費用がかかる。現行システムは、操作が複雑で、何かと手間がかかる。	Movex システムは通常のシステムに比べてシンプルで、使い勝手が良く、操作性に優れるため、経費の無駄となる操作ミスを減らすことができます。
Movex の活用で業務を効率化	
現状の課題	Movex 活用による利益
ユーザーは、自分固有の業務に関する情報を入手および収集するために、複数のシステムに別々にアクセスしなければならない。	さまざまなビジネス・システムを使用する上で、パーソナライズされたユーザー・エクスペリエンス(ユーザー体験)を利用でき、作業効率が向上します。
Movex の活用でオープン・スタンダードによるシームレスなビジネス環境を実現	
現状の課題	Movex 活用による利益
会社組織を横断するビジネス・トランザクションには多くの障害がある。	会社組織を超えたシームレスなビジネス運営が可能になります。
Movex の活用で対応をプロアクティブに	
現状の課題	Movex 活用による利益
事務処理が多く、それが原因で、さまざまな問題への対応が後手後手にまわっている。	業務の発端から管理を徹底することで、手間のかかる事務処理を軽減できます。画面で全体像を確認することにより、自分の担当分野の状況を明確に把握することができ、受動的ではなく、能動的な対応が可能になります。
Movex の活用で手動による請求処理を軽減	
現状の課題	Movex 活用による利益
請求処理に時間がかかる。	電子的な請求処理により、手作業による請求処理が大幅に削減され、時間とコストが節約できます。
Movex の活用で文書足跡を削減	
現状の課題	Movex 活用による利益
文書足跡はますます煩雑化し、重要な情報がどこかに紛れてしまうことも多々ある。	自社組織を電子的に他組織と接続することで、物理的な文書足跡が不要になります。
Movex の活用で請求処理コストを軽減	
現状の課題	Movex 活用による利益
非常に多くの人を手作業で請求処理を行っており、請求管理コストが急増している。	EDI やスキャンにより、請求処理のコストが低減されます。